



高性能多用途双発ヘリコプター「BK117」

川崎重工が、国産ヘリコプターとして初の型式証明を取得した「BK117」。
世界で1200機以上を納入したロングセラー機で、その秘密は
開発方針と挑戦心の継承にあった。

2001

BK117 C-2

C-1をベースにキャビンスペースを約30%拡大。全備重量も3585kgに増やした。また、水平尾翼やブレード翼の設計変更による飛行性能の向上、騒音の低減、パイロットの作業負担を減らす見やすい統合計器の採用など、革新的な技術の投入でBK117は新たな進化を遂げた。



1995

BK117 C-1

搭載エンジンを仏チュルボメカの「アリエル」に換装。アリエルは、ヘリコプター用の遠心式ガスタービンエンジンで、安定した性能でベストセラーになっている。アリエルの搭載によりホバリング能力が飛躍的に向上した。



1993

BK117 B-2

プロトタイプ機からエンジンを換装して高温・高空性能を高め、全備重量も3200kgに増やした「B-1」。さらにB-1をベースにトランスミッションの出力の向上を図り、最大全備重量を150kg増加させたのが「B-2」だ。多用途ヘリとしての活用幅が拡大した。



1982

プロトタイプ機

1977年、西独MBB社との共同開発の正式契約が締結。1982年、国産ヘリコプターとして初の型式証明を取得した。



BK117は、川崎重工が西独MBB社（現エアバス・ヘリコプターズ・ドイツ社）と共同開発した高性能多用途双発ヘリコプターで、1982年に国産ヘリコプターとして初の型式証明を取得した。以来、物資輸送、救難、パトロール、緊急医療サービスなどさまざまな用途で採用され、ロングセラー機として歴史を刻んでいる。

BK117は「使いやすい安全なヘリコプター」を設計方針として開発が進められた。初期設計の段階から、①独立した2機のエンジンを備え、片エンジンが停止しても飛行可能、②客室と貨物室の床面を同一の平面にし、客室両側はスライド式ドア、胴体後部は両開きの観音開きドア、③シンプルなトランスミッションによる高い信頼性、などの技術が投入された。

単に安全に飛行するだけでなく、多用途での運用にあたり、ミッションの完璧な遂行をサポートする仕組みも取り入れられているのである。1976年に開発が発表されたEMS（救急医療サービス）型が「ドクターヘリ」として圧倒的な支持を得ているのも、「使いやすい安全なヘリコプター」という設計方針が具現化していたからである。

BK117は、プロトタイプ機からA、B、Cシリーズへと発展。現行の「C-2」は、フルモデルチェンジにより飛行性能を向上させるだけでなく胴体の大型化も実現。初期の開発技術者が、「開発が実を結ぶには通常10年を要するが、この開発を軽視しては、製造メーカーはその成立基盤を失うことになるだろう」と述べた挑戦への意欲は、初号機から30年を経てもなお燃え続けている。